

## 地域住民による応急処置技術向上をめざして

### 特色のある内容

出水学区自主防災会では、学区総合防災訓練でのひとつの訓練内容として応急処置訓練を実施しています。その応急処置訓練では、各町内におられる赤十字奉仕団出水分団の分団員が指導者となり、訓練に参加された地域住民に対し、いざというときの応急処置技術の向上をめざして指導を行なっています。総合防災訓練には、日本赤十字社京都府支部からの応援を受け、積極的に地域住民を指導することにより、大規模災害時には自分達が中心に活動しなければならないという自覚も再確認しています。

また、総合防災訓練に参加した地域住民も同じ地域の方々がこういった活動を実施していることを知り、より一層の応急処置の啓発につながっています。



### 特記事項

- 出水学区では、自主防災会が防火・防災に関する活動を積極的に行っており、各行事等において主体性を持って、計画し、及び実施されています。
- 学区総合防災訓練においても、地域住民に対する各種訓練指導を自主防災会本部役員が指導者となり実施しているところです。
- 本部役員だけでなく、赤十字奉仕団という訓練参加者と同じ地域住民が積極的に指導者として訓練に参加していくことにより、地域全体に「いざという時、自分たちの町は自分たちで守る」といった自主防災の意識がより強いものへと変化しています。

## 実感が湧く救出訓練

### 特色のある内容

今まで行っていた唐橋学区総合防災訓練の救出訓練で、「廃材が軽く、使用するジャッキの取扱いでは実感が湧かない…」という声が多く聞かれました。

そのことを踏まえ、重量のある廃材を使用して倒壊家屋を作製し、平成19年度の唐橋学区総合防災訓練で使用しました。

訓練参加者の方々から「これなら実感が湧く」、「臨場感がある」など、多くの率直な意見が出されました。



倒壊家屋の柱の重量も工夫しだいです。

### 特記事項

- 臨場感がある地震体験としては、起震車を活用した誰でもできる地震体験訓練があります。
- 発災時に初動処置や各活動を実施するには、やはり訓練体験をするのが効果的です。

今回の訓練では、少しの工夫で「訓練に臨場感」を出すことができました。

## 一つの命をみんなで救え

### 特色のある内容

弘道学区自主防災会では、学区総合防災訓練の一環として例年実施していた救出・救護・消火訓練に加えて、今年度から普通救命講習を受講された各町内の防災部員がAEDを使用した心肺蘇生法を行いました。心肺蘇生を実施する人・119番通報する人・AEDを持って来る人の3名が協力し、最終的には3名が交代で心肺蘇生法を行い、弘道学区民全員が、命の大切さ、心肺蘇生法の必要性を学びました。

今後も、これを契機に自主防災会が学区民に対して、積極的に救命活動の必要性を広めて行きます。

本訓練は、「日本版救急蘇生ガイドライン2005」に対応した訓練で、現場に居合わせた3名が応急手当・119番通報・AED搬送を行った後、救急車の到着まで交代で心肺蘇生を実施し、「一つの命をみんなで救え」の言葉どおり現場に居合わせた人全員で救命処置を実施するのを主眼に行いました。



### 特記事項

- 自主防災部では、高齢化が進み、7～8分間の心肺蘇生法を実施する体力のある人を人選しなければならないところがあり、既に普通救命講習を受講された方でも、「学区民の前で実施するのは…」という人もありました。
- 総合防災訓練の事前訓練で蘇生法の手順を忘れていた方もおられ、心肺蘇生の交代要領、AEDの操作方法、AEDを放電する際に訓練人形から離れる要領を見学者が分かるようメリハリをつけた訓練にすることに時間を要しました。
- 本訓練では、弘道消防分団員のうち、応急手当普及員の有資格者が積極的に指導に当たりました。

## 積み重ねる安心で繋がりのある桃山を

### 特色のある内容

桃山学区は、伏見桃山城を頂く古城山の山麓に南北へと広がる地域で、この学区の特徴を踏まえた自主防災活動を展開しています。

その一つである震災対策としては、防災器材格納庫を京都市配置の桃山小学校以外に、自主防災会独自で桃山中学校にも設置して、南部・北部それぞれの地域で備えを図っています。

格納している防災器材についても、計画的に増強を進めており、新たに導入したものについては、毎年実施している防災リーダー研修と総合防災訓練で取扱方法を含めた訓練を行っています。

これにより、さらなる防災力の向上に繋がるものと考え、今後も積極的な活動に努めたいと思います。



### 特記事項

- 毎年自主防災会で決めている年間行事計画において、各種様々な活動を通じて学区民の防災意識と地域の防災力向上を図っています。
- 防災器材につきましては、平成19年度にチェーンソーを2台購入して、訓練を実施したところ（写真）、学区民のみなさんの共感を頂きました。
- 「地域に何か貢献が出来る活動を!!」を目標に、平成20年度には、地元桃山小学校へAEDを寄贈し、総合防災訓練で実技訓練も実施しました。

これにより、平日は子供たちを見守り、学校が休みの日も体育館で地域体育活動を見守る強い味方になることで、各種団体からも感謝されています。

## 防災リーダー指揮による救出・救護活動

### 特色のある内容

藤森学区自主防災会では、学区内に広域避難場所が複数（京都教育大学・京都教育大学附属高校，京都市消防学校）存在するため，広域避難場所の近隣自主防災部を対象に隔年毎に総合防災訓練を実施しています。訓練内容は，各自主防災部単位での初動措置，避難訓練，自主防災会による避難状況等情報収集訓練，各種地域団体との連携による給食配給訓練，そして，地域住民による消火，救出及び救護訓練と充実した内容です。特に救出・救護訓練は各自主防災部の防災リーダー研修修了者が積極的なリーダーシップを発揮し，組織的な活動が実施されています。



### 特記事項

- 防災リーダー研修の修了者に活動指揮をしてもらうことにより，防災リーダー自身に責任感が生まれ，また，自主防災活動の本来の目的である地域住民の力の結集が効果的になると考えられます。
- 今後も，自主防災会役員，消防団員，消防署員が前面に出て訓練指導等を実施するのは控えめにして，地域住民が主体となって実施する総合防災訓練を目指しています。

## 一人で何ができるの？

### 特色のある内容

池田学区自主防災会では、毎年総合防災訓練を実施しています。

訓練内容については、例年実施している池田小学校のグラウンドにおいて、自主防災会長の指示の基に各役員が中心となり、地震発生時の初動措置訓練から始まり給食班による炊き出し訓練に至るまで、学区民が一体となった訓練が行われました。

今年は2回に分けての訓練を実施、まず1回目は各家庭において初動措置訓練を実施した後、各ブロック別に参加者が居住している建物を利用した検証訓練も行われました。

地震等の災害時に団地・マンション等の上階に居住されている高齢者・自力歩行の困難な方々をいかに早く発見して救出し、避難所まで搬送できるかというものです。ブロックのリーダーが中心となり、担架の作り方や搬送方法、踊場や階段での注意点等の他、「一人で何ができるか」という問題点についてもその場で検討されました。

2回目はブロック別に学校のグラウンドへ避難し、一連の訓練に移りました。訓練終了後、参加者の中から「日頃から一人ひとりが災害が発生したら」という意識を持つことで地域の防災力の向上に繋がるものと決意を新たにされました。



### 特記事項

#### 問題点

- 団地・マンション等に居住の方々の防火・防災に対する認識・知識度は？  
高齢者等へは普段のとおり一編の回覧ビラ等では、訓練の必要性や緊急時における対処方法は伝わりにくいので、ヘルパー・家族・友人等も含めた訓練内容にすることで高齢者本人も安心して参加できる。
- 高齢者の実態把握  
班長・棟長等各役員による聞き取り調査では、プライバシー等の問題もあり実態把握が難しい面がある。
- 役員を意識向上  
班長・棟長等は日頃からの「いま、ここで地震等の災害が発生したら？」という一灯は絶やさぬこと。